



英國二於ケル國營戰爭保險制度(2)

瀧谷, 善一

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 18(2):245-270

(Issue Date)

1915-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052324>



英國ニ於ケル國營戰爭保險 (其二)

神戸高等商業學校教授

在英國 商學士 瀧 谷 善 一

二 國營戰爭保險ノ實行

一九一四年七月下旬、塙塞兩國戰ヲ交ヘ、歐洲列強ノ國際關係紛糾ヲ來スヤ、保險業者ハ警戒ヲ加ヘ、中ニハ戰爭保險ヲ引受ケザル者ヲ生ゼシヨリ、戰爭保險ヲ引受クル保險業者ハ保險ノ申込ニ忙殺セラレタリ。戰爭保險料ハ時局ノ險惡トナルニ從ヒ次第二騰貴シ、七月三十一日ニハスエズ又ハケープ經由ノ往航又ハ復航ハ(一)英船ニシテ(イ)英國ヨリ、又ハ英國ヘ直接ニ航行スルモノハ保險金一〇〇磅ニツキ六〇志(ロ)大陸發、又ハ大陸着若クハ大陸經由ノモノハ一〇〇志(二)佛船、露船ハ總テ一〇〇志(三)獨船、伊船ハ總テ二〇〇志(即チ一〇磅)(四)其他(塙船ヲ除ク)ハ總テ八〇志ナレリ、超ヘテ八月一日ヨリ三日迄ハ「ロイヅ」ニテ營業ヲ休止セルユヘ此間ノ料率ヲ知ルヲ得ズト雖モ、前記ノ狀態ヲ以テスレバ料率ノ前途モ察スルニ難カラズ

他方ニ於テ四國ノ事情ハ船主社會ニモ甚シク疑懼ノ念ヲ與ヘタリシカバ、政府ハ英國ノ海運ヲ保護シ英國ノ外國貿易ヲ維持シテ食料及原料ノ供給ヲ豐ニシ、物價ノ騰貴ト工業トノ不振ヲ防ガンガ爲メ、前記調査會ノ提案ニ基キ國營戰爭保險ヲ實行スルニ決シ、四日ノ議會ニ於テ政府ノ計畫ヲ發表シテ其賛成ヲ得、直チニ之レヲ實行シタリ。

此實行セラレタル制度ハ大體前記調査會ノ意見ヲ採用シタルモノナレド、其後實業家ノ要求其他ニヨリ、多少變更セル處ナキニ非ザレバ左ニ之レヲ說クコト、セリ。

第一 船舶保險。

船舶ノ戰爭保險ニツキテハ商務省(Board of Trade)ハ現存セル三船舶戰時保險相互組合(註三)ト再保險契約ヲ結ビ此等組合ノ再保險者トシテ組合ニ屬スル船舶ヲ間接ニ保險スルコト、セリ。故ニ船舶ノ保險關係ハ(A)政府ト組合トノ再保險關係(B)組合ト被保險者トノ保險關係トノ二ニ分チテ説明スルヲ便宜トス、但シ兩者相關係スルコトハ勿論ナリ。

註三 政府ト再保險契約ヲ結ベル相互保險組合左ノ如シ。

1 The North of England Protecting and Indemnity Association, Newcastle-on-Tyne.

2 The Liverpool and London War Risks Insurance Association, Limited, Liverpool.

3 The London Group of War Risks Insurance Associations, London.

最後ノ組合ニハ數多ノ相互保險組合ヲ含ム。

(A) 政府ト組合トノ再保險關係ハ其間ノ契約ニヨリテ定マル、其主ナル點左ノ如シ。

一、開戰當時組合ニテ保險セラル、組合員ノ船舶ニ對シテハ、組合ハ從來ノ保險ヲ擴張シテ一定ノ期間(後ニ説明ス)ノ敵軍ノ危險ヲ保險スルコト、シ、政府ハ組合ノ再保險者トシテ、組合ノ保險スル總テノ船舶ヲ再保險ス。此再保險ニツキテハ政府ハ保險料ヲ徵スルコトナク、組合ガ原保險者トシテ負フ責任ノ八割ヲ負擔ス。

二、開戰後航海ヲ開始スル組合員ノ船舶ニ對シテハ、組合ハ一定ノ航海ニ限り、又ハ一定ノ期間ニ限り、敵軍ノ危險ヲ保險シ、政府ハ組合ノ再保險者トシテ左ノ如ク組合ノ引受ケタル船舶ヲ再保險ス。

(イ) 航海保險 (Voyage Policy) 此保險ニ對シテハ政府ハ五分ヲ超ヘザル範圍内ニ

於テ定ムル保險料ヲ徵收シ、組合ノ原保險者トシテノ責任ノ八割ヲ負擔ス。

政府ノ再保險ノ目的ノ範圍ハ組合員ノ所有ニ屬シ、戰爭開始後始メタル航海ニ對シ組合ニ於テ保險セラレタル總テノ船舶ニ及ブモノトス。此原則ニハ下ノ二ノ例外アリ。(1) 政府ハ組合ニ對シ或種ノ航海ニ對シテハ再保險ヲ引受ケザル旨ヲ通知スルコトヲ得、組合ハカ、ル通知ヲ受取リタル後其航海ニ對シ引受ケタル保險ニ對シテハ政府ハ再保險ノ義務ナシ。但シ開戰當時航海中又ハ港ニアリタル船舶ガ中立港ニ着シ、其處ニテ其保險ハ已ミタルトキハ、其中立港ヨリ英國港ニ至ルマデノ航海ニツキテハ政府ハ常ニ其船舶ヲ保險ス。(2) 組合ハ自己ノ都合ニヨリ其引受ケタル保險ヲ政府ニテ再保險ニ附セズシテ、他ニテ再保險ニ附スルコトヲ得。

保險料ハ政府之レヲ定メ、必要ニ應ジテ之レヲ變更ス。保險料ノ制定及ビ變更ハ書面ヲ以テ組合ニ通知ス。組合ノ保險シタル何レノ船舶モ原保險契約ノ當時政府ヨリ組合ニ通達アリタル保險料ニヨリテ政府之レガ再保險ヲ引受ク。但シ原保險締結後十四日以内ニ保險ノ目的タル船舶ガ航海ヲ開始セザルトキハ、其

船舶ノ實際航海ヲ開始シタル時、其航海ニ適用スベキ料率ニヨリ政府之レガ再保險ヲ引受ク。

組合ハ政府ノ徵收スル保險料以上ノ保險料ヲ組合員ヨリ徵收スルコトヲ得ズ、組合ノ損害填補負擔額ガ此保險料收入ヲ超過スルトキハ其超過額ハ組合ノ定款ノ定ムル處ニヨリ、組合員ヨリ徵收スベキモノトス。

(口)定期保險(Time Policy) 此保險ニ對シテハ政府ハ組合ヨリ時々定ムル保險料ヲ徵收シ、組合ノ原保險者トシテ負フ責任ノ八割ヲ負擔ス。

組合ハ政府ノ徵收スル保險料以上ノ保險料ヲ組合員ヨリ徵收スルコトヲ得ズ、損害填補負擔額ガ此保險料收入ヲ超過スルトキハ此超過額ハ組合ノ定款ノ定ムル處ニヨリ組合員ヨリ徵收スベキモノトス。

三、保險價額ハ初メノ再保險契約ニ對シ制限ヲ加ヘタリ。初メハ組合ト組合員トノ間ニ定メタル保險價額ヲ以テ政府ノ再保險價額ト認メシガ、一九一四年九月九日夜半以後ハ此原則ニ制限ヲ加ヘ、原保險及ビ再保險ニ於ケル保險價額ハ定期保險タルト、航海保險タルトヲ問ハズ、船舶ノ原價ニ其改造及ビ増築ノ費用ヲ加ヘズ

シテ一年四分ノ減價ヲ控除セル額ヲ超過セザル金額ヲ標準トスベキコト、セリ但シ總登簿噸數(Gross register tonnage)一噸ニツキ三十志ヲ最下限トス。

四、組合ハ政府ガ再保險スル義務アル原保險ヲ絶エズ政府ニ報告スベシ。政府ハ之レニ對シ要求アルトキハ再保險證券ヲ發行ス。

五、政府ハ二人ノ保險事務官ヲ任命ス。此保險事務官ハ組合ノ理事會ニ出席スルコトヲ得。

前記ノ保險事務官ハ原保險其損害竝ニ填補額ニ關スル組合ノ所有又ハ占有ニ屬スル帳簿及ビ證書ヲ組合ニ都合ヨキ時間ニ検査スルコトヲ得。組合ハ上記ノ事項ニ關シ知レル事項ヲ保險事務官ニ告グベシ。組合ハ又及ブ限リ原保險其損害竝ニ填補額ニ關シ組合ガ呈示ヲ請求シ得ベキ他人ノ帳簿及ビ書類ヲ保險事務官ノ檢閱ノ爲メニ呈示シ又ハ呈示セシムルニカムベキモノトス。

六、左記ノ事項ニ關スル組合ノ理事會ノ決定ハ、保險事務官ガ書面ヲ以テ不同意ヲ唱フルニ非ザレバ、政府ヲ拘束シ、政府ハ之レニ從ハザルベカラズ。(1)原保險ノ損害額竝ニ填補額ノ決定(2)被保險者ノ保險契約取消、保險料返還請求ノ件、海損供託

金其他ノ供託金、又ハ分擔金ニ關スル件、海難救助費及其拂戻ニ關スル件、其他一般保險ニツキ又ハ保險ニ關シテ起ル總テノ事件ニ對スル組合ノ理事會ノ決定。

七、損害及ビ填補ノ請求ニ關シテ組合ノ支出シタル費用ノ八割ハ政府ノ負擔トス。

八、政府ノ組合ニ支拂フベキ損害填補金、供託金、竝ニ費用ト組合ノ政府ニ支拂フベキ保險料、海難救助費、其他ノ金ト相殺スル爲メ政府ト組合トノ間ニ交互計算勘定ヲ開ク。而シテ組合ノ受取ルベキ差額ガ二萬磅ヲ超ユルトキハ其超過額ハ組合ノ請求後七日内ニ政府之レヲ支拂フ。此交互計算書ハ組合ニ於テ四季勘定日毎ニ締切リ、締切後三箇月以内ニ政府ニ交付ス。其交互計算書ニ表ハレタル殘額ハ計算書交付後七日内ニ決濟セラルベキモノトス。

九、當事者ノ一方ハ六箇月ノ豫告ヲ以テ再保險契約ヲ終了セシムルコトヲ得、但シ此場合ト雖モ、其期限滿了以前ニ組合ノ締結シタル保險ニ關シテハ政府ハ再保險スルノ義務ヲ有ス。

(B)組合ト被保險者トノ關係ハ組合ノ保險證券及ビ定款ニヨリ支配セラル。各組

合ニ於テハ政府ト上記ノ契約ヲ遂ゲ、其定款及ビ保險證券ニ必要ナル改正ヲ加ヘテ、政府ノ認可ヲ得、政府ノ指定スルガ如ク保險ノ範圍ヲ擴張セリ。從ツテ組合ト被保險者トノ關係ハ各組合ニヨリ保險證券ノ種類ニヨリ多少ノ相違アルモ、大體ニ於テ一致セルヲ以テ、今左ニ組合ノ保險證券及ビ定款ニヨリ其大要ヲ説クベシ。

一、前記再保險契約ニヨリ無償ニテ政府ガ再保險ヲ爲ス原保險ノ期間ハ左ノ如シ。

(イ) 船舶ガ開戰當時航海中ナルトキ。此場合ニハ當時契約セラレ居タル保險ハ左ノ如ク延長セラル。

(a) 船舶ガ英國友邦又ハ中立國ヘ(1)貨物又ハ旅客ヲ積ミテ、若クハ(2)バラストニテ航海中ナルトキハ(1)ノ場合ニハ開戰以前積込ミタル貨物又ハ旅客ノ最後ノ到達港ニ着スル迄、(2)ノ場合ニハ開戰當時バラストニテ航海セル目的港ニ着スル迄、竝ニ(1)ノ場合ニハ前記到達港(2)ノ場合ニハ前記ノ目的港ニ於ケル到着後ハ十日間ヲ保險ス。若シ其港ガ碇泊ニ安全ナラザルカ、友邦港ナルカ、若クハ中立港ナリシモノガ前記十日經過以前ニ中立タルコト已ミタル場

合ニハ、更ニ碇泊ニ安全ナル英國港、又ハ中立港(中立ガ到着後十日ヲ經過スル迄已マザル)ニ着スル迄及ビ其港ニ於ケル到着後ノ十日間ヲ保險ス。

(b) 船舶ガ敵、港、ヘ航海中ナルトキハ積荷、又ハ旅客ヲ卸シ得ベキ碇泊ニ安全ナル、英國港、又ハ中立港(中立ガ到着後十日ヲ經過スル迄已マザル)ニ着スル迄及ビ其港ニ於ケル到着後ノ十日間ヲ保險ス。

(c) 船舶ガ開戰當時航海中ナラズ、碇泊中ナルトキ。此場合ニハ當時契約セラレ居タル保險ハ其期間經過スルモ左ノ範圍ニ於テ引續キ保險セラル。

(a) 船舶ガ碇泊ニ安全ナル英國港又ハ中立港ニ在ルトキハ、開戰後其港ニ於ケル十日間ヲ保險ス。但シ此十日内ニ中立港ノ中立タルコト已ミタル場合ハ次ノ規定ニ依ル。

(b) 船舶ガ(1)碇泊ニ安全ナラザル英國港又ハ中立港ニ在ルトキ、(2)中立港ニシテ開戰後十日内ニ中立タルコト已ミタル港ニ在ルトキ、(3)友邦港ニ在リタルトキ、(4)敵港ニ在リタルトキ、ハ總テ碇泊ニ安全ナル英國港又ハ中立港(其中立ガ到着後十日ヲ經過スル迄已マザル)ニ到着スル迄及ビ其港ニ於ケル十日

問ヲ保險ス。

此保險ニツキテハ(一)英國ガ交戰國トナルトキハ出來得ル限リ其航路、寄港地及ビ航海中止ニ關スル政府若クハ組合ノ理事會ノ指令ニ從フコトヲ要ス。(二)船舶ハ敵國ニヨリ與ヘラレタル猶豫期間内ニ敵港ヲ去リ、敵國ヨリ與ヘラレタル航海免狀ノ規程ニ從フコトヲ要ス。若シ上記ノ一項ニ違反スルトキハ、其違反ガ被保險者、船主又ハ船舶營業引受人ノ過失又ハ了知ナクシテ起レルコト、又ハ其違反ガ戰爭ノ危險ニヨル損害ヲ避ケンガ爲メニ起レルコトノ充分ナル説明ヲ組合ノ理事會ニ與フルニ非ザレバ、其保險契約ハ無効トナリ、又ハ損害填補請求權ハ消滅ス。

二、前記再保險契約ニヨリ保險料ヲ徵收シテ政府ガ再保險ヲ爲ス原保險、即チ組合ガ開戰後航海ヲ開始スル船舶ニ對シテ引受クル保險ハ、初メハ航海ヲ標準トシ總テ均一率ヲ課スル方法ニヨリシガ、カクテハ遠洋航路ト近海航路トノ間ニ料率ノ公平ヲ缺ク所アルヨリ、後ニ至リ三箇月ノ定期保險ヲモ引受クルコト、ナレリ。從ツテ現今ニテハ航海保險ト定期保險トノ二種ノ方法行ハル。

(イ)航海保險 此保險ニアリテハ一航海ト巡航海ニヨリ保險料ヲ區別ス。

(a) 一航海トハ

(1) 船舶ガ「バラスト」ニテ出發港ヨリ到達港ニ至ルマデノ航海(石炭積込又ハ航行地受命ノ爲メニ航海ノ途中寄港スル總テノ港ヲ含ム)竝ニ其到達港ニ於ケル到着後ノ三十日間ヲイフ。若シ此三十日間ニ其船舶ガ他ノ航海保險又ハ定期保險ニヨリテ保險セラル、トキハ、其時マデトス。

(2) 積荷又ハ旅客ヲ積ミテ最初ノ積込港ヨリ最後ノ陸揚港ニ至ルマデノ航海(積込陸揚、石炭積込又ハ航行地受命ノ爲メニ航海ノ途中寄港スル總テノ港ヲ含ム)竝ニ其到達港ニ於ケル到着後ノ三十日間ヲイフ。若シ此三十日間ニ其船舶ガ他ノ航海保險又ハ定期保險ニヨリ保險セラル、トキハ、其時マデトス。

積荷若クハ旅客ヲ積メル航海ニ先ツ「バラスト」ハ航海ハ其航路ガ八百哩ヲ超過セザル場合ニ限り、一航海ト看做サレズシテ、後ノ積荷又ハ旅客ヲ積メル航海ノ一部ト看做サル。

(b) 巡航海トハ前記ノ意義ノ二航海ヲ繼續シテ爲スヲイフ。故ニ例ヘバ甲港

ヨリ乙港ヲ最後ノ陸揚港トシテ積荷ヲ運搬セル船舶ガ返リ荷ヲ得ル爲メ積荷ノ陸揚後三十日內ニ「バラスト」ニテ丙港ヘ航行シ丙港ヨリ積荷ヲ得テ甲港ニ歸リタル場合ト雖モ、乙港ト丙港トノ距離ガ八百哩ヲ超ヘザルトキハ、此全航海ハ一ノ巡航航海ナリ。

航海保險ニ在リテハ(一)船舶ハ出來得ル限り、航路、寄港地及ビ航海中止ニ關スル政府又ハ組合ノ理事會ノ指令ニ從フコトヲ要ス。(二)船舶ハ政府ノ禁止アルトキハ航海ヲ開始スルコトヲ得ズ。(三)船舶ハ敵國ニヨリ與ヘラレタル猶豫期間內ニ敵港ヲ去リ、敵國ヨリ與ヘラレタル航海免狀ノ規程ニ從フコトヲ要ス。(四)船舶ハ敵國ニヨリ封鎖セラレタルコトヲ知レル港ニ入港又ハ出港シ、若クハ入港又ハ出港セント計ル事ヲ得ズ。若シ上記ノ一項ニ違反スルトキハ、其違反ガ被保險者船主又ハ船舶營業引受人ノ過失又ハ了知ナクシテ起レルコトノ充分ナル説明ヲ組合ノ理事會ニ與フルニ非ザレバ、其保險契約ハ無効トナリ、又ハ損害填補請求權ハ消滅ス。

此保險ニ在リテハ、保險ノ目的タル船舶ハ保險證券ニ指定セラレタル時期以前ニ航海ヲ開始スルコトヲ要ス。其時期ヲ經過シテ航海ヲ開始スルトキハ、其當時政

府ノ定ムル保險料ニヨリテ保險セラル、モノトス。若シ船舶ガ政府ノ命令ニヨリ航海ヲ開始スルコト能ハザリシトキハ、被保險者ハ其契約ヲ取消シ、既ニ拂込ミタル保險料ノ返還ヲ請求スルコトヲ得。

(口)定期保險　此保險ノ期間ハ通常九十一日トス。此保險契約終了ノ當時、保險ノ目的タル船舶ガ航海中ナルトキハ、該保險契約ハ日數ニ比例スル保險料ニヨリテ、該船舶ノ安全港ニ到着スル迄及ビ其港ニ於ケル到着後ノ三十日間ヲ保險セラル。

此保險ニ在リテハ(一)船舶ハ單ニ商業ノ爲メニ使用セラル、コトヲ要ス。(二)船舶ハ政府又ハ組合ノ理事會ニヨリテ禁止セラレタル商業ニ從事スルコトヲ得ズ。且ツ出來得ル限り出帆、航路、寄港地、航海停止、到着其他ニ關スル政府又ハ組合ノ理事會ノ指令ニ從フコトヲ要ス。(三)船舶ハ敵國ニヨリ與ヘラレタル猶豫期間内ニ敵港ヲ去リ、敵國ヨリ與ヘラレタル航海免狀ノ規程ニ從フコトヲ要ス。(四)船舶ハ敵國ニヨリ封鎖セラレタルコトヲ知レル港ニ入港又ハ出港シ、若クハ入港又ハ出港セント計ルコトヲ得ズ。若シ上記ノ一項ニ違反スルトキハ、其違反ガ被保險者、船主又ハ

船舶營業引受人ノ過失又ハ了知ナクシテ起レルコトノ充分ナル説明ヲ組合ノ理事會ニ與フルニ非ズンバ、其保險契約ハ無效トナリ、又ハ損害填補請求權ハ消滅ス

三、組合ノ保險スル危險ハ敵軍ノ危險ナリ。詳言スレバ組合ハ敵國ニヨル拿捕(Capture)差押(Seizure)抑留(Detention, or Detainment)ノ損害、此等ノ結果トシテ生ズル損害又ハ此等ヲ行ハントスルヨリ生ズル損害、其他宣戰ノ前後ヲ問ハズ敵國ニヨリ又ハ敵國ニ對シテ爲サレタル戰鬪又ハ敵對行爲ニ因ル總テノ結果ヲ保險スルモノナリ。組合ハ此外、從前ノ通り船員ノ惡行(Barratry)海賊、暴動、内亂ノ危險ヲモ保險スルコトアレドモ、コレニ對シテハ政府ノ再保險ヲ受クルコトヲ得ズ。

四、保險ノ目的タル船舶ハ保險期間ヲ通ジテ常ニ英國ニ於テ(組合ノ都合ニヨリテ)英國又ハ英領ニ於テトスルコトヲ得、登録セラレアルコトヲ要ス。之レニ違反スルトキハ被保險者ハ損害填補請求權ヲ失フ。

五、保險ノ目的タル船舶ハ普通ノ「ロイド」證券(Collision Clause 及 F. C. & S. Clause)ヲ含メルニヨリ保險者ノ引受クル總テノ危險ニ對シ、常ニ組合指定ノ保險者ニヨリテ保險セラレアルモノト看做サル。若シ此等ノ危險ヲ全ク保險ニ附セザルカ、又ハ

組合指定以外ノ保險者ニ就キ保險ニ附セルトキハ、上記ノ規定ニヨリ保險ニ附セラルベキ筈ナリシ危險ニヨリ、又ハ組合指定以外ノ保險者ニ就キ保險ニ附セラレタル危險ニヨリ生ズル損害ニツキテハ、此戰爭保險證券ニヨリテ組合ヨリ填補ヲ請求スルコトヲ得ズ。

六、被保險者ハ組合ノ理事會ノ要求アルトキハ、保險ノ目的タル船舶ノ使用、其所
在並ニ其他理事會ノ必要ト認ムル事項ニツキ充分ナル報導ヲ與ヘザルベカラズ。
七、保險價額ハ船舶ノ原價、其改造増築ノ費用ヲ加ヘズシテ一年四分ノ割合ニテ
減價ヲ控除シタル額トス。但シ總登簿噸數(Gross register tonnage)一噸ニツキ三十志ヲ
最低額トス。

八、保險金額ハ保險價額ニヨリ制限セラル、コト勿論ナルガ、其外組合ニヨリテ
ハ一保險證券ノ價額ハ其當時組合員ガ醵金ニヨリテ相互的ニ損害ヲ分擔スル責
アル保險證券ノ總額ノ五分ヲ超過スルコトヲ得ズトノ制限ヲ置ケリ。

九、損害填補ノ金額及ビ方法左ノ如シ。

(イ)保險ノ目的タル船舶ガ拿捕差押、抑留ニヨリ損失セル場合ニハ損失ノ日ヨ

リ百八十三日ヲ經過シタル後其損害ヲ填補ス。但シ此猶豫期間内ハ年四分ノ利子ヲ附ス。

(口)保險ノ目的タル船舶ガ前記期間内ニ再拿捕、解放其他ニヨリ被保險者ニ復歸シタル場合ニハ、直チニ左記ノ金額ヲ支拂フ。

(a)拿捕、差押、抑留ノ爲メニ船舶ノ被リタル損害ノ修繕費。

(b)拿捕、差押、抑留及ビ解放ノ爲メニ船舶ニ關シ生ジタル費用。

(c)拿捕、差押、抑留ノ日ヨリ解放ノ日マデ保險金額ニ對スル一箇年一割ノ割合ニテ計算シタル金額。

(ハ)保險ノ目的タル船舶ガ全損セル場合ニハ、損害填補額ヲ三等分シ夫々損害ノ日ヨリ六箇月、九箇月及ビ十二箇月ノ三回ニ支拂フ。但シ此猶豫期間内ハ年四分ノ利子ヲ附ス。

十、損害ノ發生又ハ損害填補ノ原因タル事故ノ發生スルトキハ、被保險者ハ遲滞ナク書面ヲ以テ之レヲ組合ニ通知スルヲ要ス。コレヲ怠ルトキハ組合ノ理事會ハ損害填補ノ請求ヲ拒絶シ又ハ填補額ヨリ相當ノ減額ヲ行フコトヲ得。

已ニ前ニモ述ベタルガ如ク戰爭開始前ニ在リテハ此等三組合ノ屬スル船舶ハ英國外國貿易船ノ七割ナリシガ、現今ニ於テハ殆ンド總テノ船主ハ此三組合ノ何レカニ加入シ國家ノ保險ヲ受クルニ至レリ。

保險料ハ當初ハ總テ航海保險トシ、一航海ニツキ一步四分ノ一、巡航海ニツキテハ二步半ヲ徵シタリシガ、八月中旬ニ至リ遠洋航路ト近海航路トノ間ニ料率ノ公平ヲ期スル爲メ、二步半ニシテ三箇月ノ定期保險ヲ引受クルコト、ナレリ。越エテ九月一日ニ至リ保險料ハ定期保險ニ在リテハ一航海ニツキ一步、巡航海ニツキ二步ニ、定期保險ニ在リテハ九十一日ニ對シ二步ニ引下ゲラレ、且ツ前ニ述ベタルガ如ク八百哩以下ノ「バラスト」航海ハ或場合ニハ一航海ト看做サルコト、ナリ以テ今日ニ至レリ。

上述ノ次第ナレバ目下英國ニテハ外國貿易船ニシテ組合以外ノ保險者ニ就キテ船舶ノ戰爭保險ヲ契約スルコト甚ダ稀ナリ。而シテカ、ル場合ノ保險料ハ當事者ニヨリ時期ニヨリ刻々變化シツ、アレバ此ニ掲グルコトヲ得ズ。

以上ハ汽船ノ保險ナルガ、八月十三日政府ハ更ニ開戰當時海上ニ在ル遠洋航路ノ帆船ニ對シテ保險ヲ擴張スルニ決シタ

リ。其計畫ハ遠洋航路ニ從事スル帆船所有者ナシテ帆船ニ對スル戰爭保險相互組合ヲ作ラシメ、其組合ノ引受クル保險ヲ政府ハ再保險スルニ在リ。保險ノ目的タル帆船ハ此組合ニ屬スルモノタルヲ要シ。保險ノ範圍ハ現ニ遠洋航海ニ在ル帆船ハ現在ノ契約ニ從ヒテ其航海ヲ終了スル迄ノ敵軍ノ危險ニ限ラル。政府ハ無償ニテ此危險ノ六割ヲ負擔シ、殘リ四割ハ保險組合ニテ負擔ス。保險價額ハ船舶ノ原價ヨリ一箇年三分ノ減價ヲ控除シタルモノトス。(最低價、總登錄噸數一噸ニツキ三十志トス)其他沿岸航海ニ從事スル船舶及ビ漁船ニ對シテモ亦政府之レガ保險ヲ爲シ居レリト傳ヘラル、モ、余ハ未ダ之レガ研究ヲ爲サルヲ以テ此ニハ詳説シ難シ。

第二 積荷保險

積荷保險ニツキテハ政府ハ英獨開戰公表ノ日、卽チ八月五日ノ午後二時(公表ハ零時十五分)戰爭保險局ヲロンドンニ設ケオーエン(Douglas Owen)氏ヲ其局長ニ任命シ政府ノ官吏及ビ保險會社ノ事務員五十名ヲ差向ケテ保險事務ヲトラシメ、別ニ専門家ヲ商議員トシテ保險料率其他重要ナル事項ニ關シ必要ナル補助ヲ受クルコト、セリ。

此保險制度モ大體調査會ノ報告ニ從ヒシモノナレド、其後實業界ノ要求ニヨリ變更ヲ加ヘタル點モアリ、又九月十六日ヨリハ白耳義政府ト協定シテ、一定條件ノ下ニ白國船ノ積荷ヲモ保險スルコト、ナリシカバ、左ニ其要項ヲ説明セン。

一、此保險ノ範圍ハ船舶ノ場合ト同ジク、敵國ニヨル拿捕、差押抑留ノ損害、此等ノ

結果トシテ生ズル損害此等ヲ行ハントスルヨリ生ズル損害其他宣戰ノ前後ヲ問ハズ敵國ニヨリ又ハ敵國ニ對シテ爲サレタル戰鬪又ハ敵對行爲ニ因ル總テノ結果ヲ保險スルニ在リ。而シテ定額保險ヲ原則トスルモ或條件ノ下ニハ「オーブンポリシー」(Open Policy)ヲモ發行ス。

二、保險ノ目的ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス。

(イ)保險ノ目的タル貨物ハ戰爭保險相互組合ニ屬シ、其航海ニツキ英國政府ノ再保險ヲ受ケタル船舶、又ハ其航海ニツキ白國政府ノ戰爭保護計畫ニヨリ保險セラレタル船舶ニ積載セラレ又ハセラル、モノナルヲ要ス。以上ノ條件ヲ充セバ(a)其船舶ノ航路ノ何地タルヲ問ハズ。故ニ例ヘバ日本ヨリシンガポールニ送ル積荷モ上記ノ船舶ニ積載セラル、トキハ戰爭保險局ニ於テ保險ニ附スルコトヲ得ルナリ。但シ例外トシテ英國船ニアリテハ英國海軍省ニテ禁止セル航路、白國船ニアリテハ英國海軍省及ビ白國政府ノ禁止セル航路ニツキテハ保險ヲ引受クルコトナシ(b)其積荷ノ所有者ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ。故ニ例ヘバ日本人ノ積荷モ上記ノ船舶ニ積載セラル、トキハ戰爭保險局ニ於テ保險ニ附スルコ

トヲ得ルナリ。但シ敵貨ハ此限ニ非ズ。(c)其積荷ノ種類ヲ問ハズ。故ニ例ヘバ玩具ノ如キ戰爭ニ關係ナキ貨物ノ保險ヲモ引受クルナリ。但シ例外トシテ命令ニヨリテ運送ヲ禁止セラレ又ハ其他ノ制限ヲ加ヘラレタル貨物ニツキテハ保險ヲ引受クルコトナシ。

(d)保險ノ目的タル貨物ハ戰爭開始後航海ヲ開始セル船舶ノ積荷タルコトヲ要ス。然ルニカク嚴格ニ解スルトキハ、荷主ノ不便非常ニ大ナリシヲ以テ政府ハ商議員會ノ意見ヲ容レテ戰爭開始ノ當時海上ニアル船舶内ノ積荷ニツキテモ、其船舶ガ已ニ航海中ニ在ルコト竝ニ其船舶ガ寄港地又ハ或地點ニ安全ニアルコトヲ被保險者ガ擔保スルトキハ、其保險ヲ引受クルコトヲ得ル權限ヲ商議員會ニ與ヘタリ。

(ハ)保險ノ目的タル貨物ハ特定ノ保險業者ニヨリテ其航海ニ關シ海上保險ヲ附セラレタルモノタルコトヲ要ス。此海上保險契約ハ(a)戰爭開始後契約セルモノニツキテハ其保險金額ガ保險價額ノ七割以上タルコトヲ要シ、戰爭開始前契約ノモノハ例外トシテ唯充分ニ其保險價額ヲ證明スレバ可ナリトセリ。(b)ロイ

「アンダーライター」英國及白國ノ保險會社及ビ其他英國政府ノ認定スル保險會社又ハ「アンダーライター」ニヨリ保險セラレタルコトヲ要ス。政府ノ認定スル敵國ノ保險會社又ハ「アンダーライター」ノ海上保險證券ハ戰爭開始前ニ發行セルモノニ限り此目的ノ爲メニ有效トス。

前記ノ海上保險證券ハ保險局ノ要求アルトキハ、保險價額ノ證明トシテ之レヲ呈示スルコトヲ要スルヲ原則トス。然レドモ外國ニ於テ海上保險ヲ附シ同時ニ英國ニ於テ戰爭保險ヲ附スルガ如キ場合ニ、直チニ其海上保險證券ヲ保險局ニ呈示シ難キ事情アルヲ以テ、被保險者ノ便宜ノ爲メニ、カ、ル場合ニハ外國ニ於ケル海上保險取結ビノ電報ヲ以テ其保險價額ヲ證明スレバ足レリトシ、海上保險證券ハ損害發生又ハ損害填補請求ノ際ニ呈示スレバ可ナリトセリ。

三、保險價額ハ其積荷ノ海上保險證券ニ記載セル價額ニ依ル。而シテ保險詐欺ノ起ルコトヲ防グ爲メ、前記ノ海上保險證券ハ一定ノ保護業者ノ發行セルモノニ限ルトセルコト前ニ述ベタルガ如シ。

四、貨物ノ所有者ハ保險價額ノ全額ヲ保險ニ附スルコトヲ得ベク、又其一部ヲ保

險ニ附スルコトヲ得ベシ。一部保險ノ場合ニ於テハ被保險者ノ保有額ハ保險價額ノ五割ヲ超過スルコトヲ得ズ。且ツ被保險者ハ其保險契約ノ終了スルマデ當初ノ保有額ヲ自ラ負擔セザルベカラズ。但シ、被保險者ハカ、ル契約ニ於テ政府ノ負擔セザル部分ヲ自ラ保有スル代リニ、政府ト戰爭保險契約ヲ結ブト同時、又ハ其以前エ政府ノ認定スル保險會社又ハ「アンダーライター」ニ保險ニ附スルヲ妨グズ。

五、保險料ハ貨物ノ種類、航路ノ如何ヲ問ハズ總テ均一トセリ。保險料ハ商議員會ノ意見ニヨリ一分乃至五分ノ範圍内ニ於テ政府之レヲ定ム。保險料ハ「ギニー」ヲ以テ之レヲ表ハシ、保險中立人ニ保險料ノ百分ノ五ヲ與フ。從ツテ「保險料」(「ギニー」)ナルトキハ政府ノ正味手取ハ一磅トナル次第ナリ。此保險料ハ保險申込ノ際、拂込ムベキモノトス。後日保險料拂戻ノ原因生ジタルトキハ、拂戻ヲ受クルコトヲ得。

保險料ハ契約當時ノ率ニヨリ後日之レヲ増減セザルヲ原則トス。但シ假保險契約成立後十四日内ニ船舶ガ航海ヲ開始セザルトキハ、船舶ノ實際航海ヲ開始セル當時ノ率ニヨリ保險料ヲ計算ス。

六、保險ノ申込ハ被保險者又ハ其代理人自ラ保險局ニ出頭シテ之レヲ爲サル

ベカラズ。申込ノ際保險價額ノ確定セザルモノハ假リニ保險金額ヲ定メシム。後日此金額ガ實際ノ保險價額ヨリ大ナルコトヲ發見スルトキハ、保險金額ヲ保險價額マデ引下ゲシメ、其超過額ニ對シテ拂込メル保險料ヲ返還ス。

七、船舶ガ政府ノ命令ニヨリ航海ノ開始ヲ妨ゲラル、トキハ、被保險者ハ其契約ヲ取消シ、保險料ノ返還ヲ受クルコトヲ得。

保險ノ目的タル貨物ノ全部又ハ一部ガ商議員會ノ至當ト認ムル理由ニヨリテ保險證券ニ指定サレタル船舶ニ積込ムコト能ハザルニ至リタルトキハ、短キ航海ノ保險ノ場合ニ限り、其保險契約ヲ取消シ、保險料ノ返還ヲ受クルコトヲ得。

保險契約ヲ取消シ、保險料ノ返還ヲ請求スル場合ニハ、其請求書ニ理由書竝ニ假保險證券及ビ保險證券ヲ添ヘテ保險局ニ呈出スルコトヲ要ス。一部取消ノ場合ニハ海上保險證券ヲ呈示スベク、又他ノ保險者ト戰爭保險ヲ結ベル場合ニハ其保險證券又ハ假保險證券ヲ呈示スルヲ要ス。

八、損害填補額ハ其積荷ニ對スル海上保險證券ヲ基礎トシテ、商議員會ニ於テ之レヲ決定ス。填補額確定スルトキハ直チニ現金ヲ以テ之レヲ支拂フ。

九、此保險ニ在リテハ(一)保險ノ目的タル積荷ハ普通ノ「ロイド」證券(F. C. & S. Clauseヲ含メル)ニヨリ保險者ノ引受クル總テノ危險ニ對シ常ニ「ロイズ」ノ「アンダーライタ」英國又ハ白國ノ保險會社、其他政府ノ認定スル保險會社又ハ「アンダーライタ」ニヨリテ保險セラル、コトヲ要ス。(二)保險ノ目的タル積荷ハ航海中一刻ト雖モ敵貨タルコトヲ得ズ(三)保險ノ目的タル貨物ヲ積載スル船舶ハ航海ノ始メ其航海ニ對シ英國政府又ハ白國政府ニヨリ戰爭保險ヲ附セラレタルモノタルコトヲ要ス。若シ上記ノ一項ニ違反スルトキハ被保險者ハ損害填補ヲ受クルコトヲ得ズ。

此保險ニ在リテハ(一)保險ノ目的タル貨物ヲ積載スル船舶ハ政府ノ禁止アルトキハ航海ヲ開始スルコトヲ得ズ。(二)該船舶ハ出來得ル限り航路、寄港地、航海中止ニ關スル政府ノ命令ニ從フコトヲ要ス。(三)該船舶ハ敵國ニヨリ與ヘラレタル猶豫期間内ニ敵港ヲ去リ、敵國ヨリ與ヘラレタル航海免狀ノ規程ニ從ハザルベカラズ。(四)該船舶ハ敵國ニヨリ封鎖セラレタルコトヲ知レル港ニ入港又ハ出港シ若クハ入港又ハ出港セント計ルコトヲ得ズ。(五)該船舶ハ航海ノ全期間ヲ通ジ常ニ英國政府又ハ白國政府ニヨリ戰爭保險ヲ附セラル、コトヲ要ス。若シ上記ノ一項ニ違反ス

ルトキハ、其違反ガ違反當時ノ保險證券ノ所持人及ビ此保險證券ニヨリ填補請求權ヲ有スル者ノ過失又ハ了知ナクシテ起ルニアラザレバ保險契約ハ無効トナリ。又ハ損害填補請求權ハ消滅ス。

十、其他海上保險證券中ノ條項ニシテ戰爭保險ニ適用セラレ得テ、而カモ前述ノ諸項ト牴觸セザルモノハ戰爭保險ニモ適用サルモノト解セラル。

以上ハ積荷保險ノ現行制度ナリ。而シテ此積荷保險ノ實行セラレタル當初ニ在リテハ、荷主ハ一々其積荷ヲ爲セル船舶ガ政府ノ戰爭保險ヲ附セルヤ否ヤヲ確メザルベカラズシテ、不便少ナカラザリシガ、幾モナクシテ殆ンド總テノ船主ハ前記三大保險組合ニ加入スルコト、ナリシヨリ此不便ハ除カレ、國營積荷保險ノ締結ヲ容易ナラシメタリ。

保險料ハ八月六日、五ギニーナリシガ、八月四ギニーニ、十八日、三ギニーニ引下ゲラレ、九月一日ヨリハ更ニ二ギニーニ引下ゲラレテ、今日ニ至レリ。

民間保險業者ノ料率ハ、宣戰ノ當日タル八月五日ヨリ七日マデハ、「ロイズ」ニテハスエズ以西ノ英國船ハ二十磅、スエズ以東ノ英國船ハ十磅ヲ徵セシガ、八日ニ至リ

總テ十磅トシ、十日、十一日ニハ更ニ五磅又ハ四ギニ^一ニテ取引セリ。越エテ十二日ニハ四磅ニ更ニ十三日ニハ三ギニ^一ニ、十四日ニハ三磅ニ、十七日ニハ二磅ニ引下ゲ政府ヲシテ十八日ニハ三ギニ^一ニ引下ゲザルベカラザラシメタリ。其後八月下旬獨逸船ニヨル拿捕ノ報アリ、一時「ロイズ」ニテハ三磅ニ引上ゲシモ九月一日ヨリハ再ビ二磅トナリ、現ニ此率ニテ營業シツ、アリ。(大正三年九月三十日 ロンドンニテ脱稿)